

福山コンサル

長期プラン再編成 M&Aで新ビジネス



福島社長

福山コンサルタントは、第3次長期プラン(2014年6月期-19年6月期)が来期(17年6月期)から後半3年間にすることから、一部数値の見直しも含め、バージョン2として再編成する。15年度末にも発表する。

長期プランは、建設コンサルタント事業の強化、新分野・新技術展開という中期モードと、公共投資に左右されない新ビジネス領域の事業を獲得する長期モードを同時稼働する「デュアルモード戦略」により展開している。19年6月期の売上高は、建設コンサルタント事業領域70億円、新ビジネス領域30億円の合わせて、連結で100億円を目標としている。

中期モードは、建設事業、交通、環境など既存6分野の顧客の維持・拡大を図っていく。加えて、ことし7月に新設した新規事業推進室により、新製品・新サービスの開発・展開、ビッグデータ、モニタリング、海外など新分野・新技術展開を推し進めていく。

新規事業推進室は、専任技術者とインキュベーター(起業支援者)を配置し、3年後の本格事業化を目指す。長期モードは、M&A(企業の合併・買収)により展開していく。投資計画額は5億円で、2日に会見した福島宏治社長は「営業キャッシュフローを超えてでも将来に向けた投資を行う」と力説した。また、「M&Aのめどが立った段階で、ホールディングス化へ向かっていきたい」との考えを示し、モデルの準備や、規定の改定作業を進めていることを明らかにした。

新ビジネスは、これまでは自社で行ってきたが、外部知見を取り入れながら、「じっくりと事業環境を見極めた上で獲得していきたい」と強調した。